二〇一二年八月一八日

万灯の燭台並ぶ堂涼し　こすもす
穂を垂るる門田へ秋の風通ふ　雅流
秋耕や余熱の大地裏返す　三刀
新涼や森の中なるカフェテラス　百合

二〇一二年八月一七日

かなかなの声に急かるる家路かな　さつき
暗闇の雲を切り裂く稲光　はく子
寝静まる谷地の四五戸や星月夜　菜々

二〇一二年八月一六日

女の子三人抜きや盆相撲　さつき
よく成りてゴーヤカーテン窓涼し　有香
秋日落つ巨大クレーンの影法師　はく子
秋めきて行く雲に山しざるごと　せいじ
寝ね惜しむ庭に降り立つ星月夜　菜々
蹲踞にあふるる水や星月夜　菜々
鬼やんま闖入したる仏間かな　雅流
香煙をかけ合ふ若き浴衣人　なつき

二〇一二年八月一五日

風鈴の輪唱せるは小間物屋　なつき
秋風の清盛塚や運河訪ふ　わかば
生身魂勝手つんぼと笑ひけり　菜々
球児等も共に黙祷終戦日　はく子
飛火野をすっぽり覆ふ秋の雨　満天

二〇一二年八月一四日

寧かれと逆縁の子の初盆忌　あさこ
大樹下に数多の鹿の雨宿り　満天
あきつ舞ふ大仏殿の鴟尾の空　ぽんこ
超高層ビルの谷間に墓洗ふ　はく子

二〇一二年八月一三日

霊帰る波だちならめ盆の川　治男
朝顔の蔓蒼天をつかまんと　満天
谺して蜩の峡昏れなんと　雅流
滴りの一滴結ぶ苔の先　よし子
晩鐘の嶺々に谺す古都の秋　宏虎
ビー玉のごとくに大き芋の露　さつき

二〇一二年八月一二日

ノクターン洩れくる窓辺秋の夜　よし子
町川のせせらぎもまた秋の声　わかば
半世紀なる逆縁の墓洗ふ　はく子
墓洗ふ風樹の嘆を詫びもして　宏虎
四方の門全開ビル街の盆の寺　菜々

毎日句会みのる選・二〇一二年八月二〇日